

## 小規模校だから出来た教育のすばらしさ 長沼小の最後の卒業式

4月から藤島小学校に統合となる長沼小学校（成澤和則校長・44人）の最後の卒業式が17日、行われました。

小規模校の長沼小学校だから出来た教育のすばらしさが、感動を呼びました。

その後開催された卒業祝賀会での、保護者代表の言葉を紹介します。

卒業生9名は、藤島7名の、一見アンバラが鶴岡と合併した平成17年度に生まれました。当時は長沼小学校が統廃合されること、わが子が最後の卒業生になることなど、想像すらしていませんでした。男の子2名、女の子



長沼小学校 最後の卒業式 (3/17)

ひとりでもかけたなら、こんなに楽しく充実した6年間は過ごせなかったと思います。子ども達はいつかそれぞれ道に進み、大きな壁にぶつかる日が来るかもしれません。心が折れるようなつらい出来事を経験することがあるかもしれません。

そんな時、長沼小学校で過ごしたこの6年が、『あせらず、あわてず、あきらめず』の積み重ねが、再び前に進む原動力になると信じています。星の色はひとつとして同じものがないといえます。この9名も、ひとりひとり個性があり、自分の色を持っています。入学当初は小さな光だったと思います。大きな小学校なら埋もれてしまっていたかもしれません。それをこの長沼小学校で素晴らしい先生方に出会い、親でさえ気づかなかつたかもしれない光を引き出していただき、また地域の方々の温かいまなざしに支えられ、今、時にまぶしいほどに命を輝かせています。今までも、これからも、長沼で、長沼小学校で、この9名で、本当によかつたと思心から思っています。……。

言極朋子（上新田）

憲法を壊し、公文書を公然と改ざんする  
安倍政権に憲法を変える資格はない  
3000万人署名にご協力願います

## 長沼温泉「ぼっぼの湯」奮闘記 板垣久喜（長沼上新田） 長沼温泉の半世紀

長沼温泉「ぼっぼの湯」が開設後7年目で利用者200万人を達成し、藤島庁舎産業課から広報「ありがとう、ぼっぼの湯200万人達成」が平成19年2月21日付で発行されている。



同紙に「長沼温泉の半世紀」と題して、長沼温泉振興組合代表の土田利男さんの文が掲載されており、ここに転載させていただきます。

☆☆☆

戦後昭和24年、焦土と化した国土、全国民が復興に立ち上がるうとしていた時、帝国石油の試掘井から石油がなく、お湯が湧出しました。

長沼村が権利の一切を買い取り、温泉運営委員会を設置して、鉄製の湯船と舞鶴海軍兵舎の解体材の使用による公衆浴場を建設し、営業を開始しました。時が時だけに大繁盛の毎日でした。

昭和29年の合併で藤島町に経営権が移管になりましたが、町は温泉町内会に温泉組合を組織させて、運営を委託しました。建物の老朽化、湯量

の減少、石油ショックなど幾重もの障害で運営は厳しいながら、町の協力を得て何とか運営を継続してまいりました。

平成5年に長沼地区の町内会3役会が地域活性化のため、温泉再開発利用研究委員会を設立して、再開発の構想をまとめて町に提出し、町では諸々の委員会、町議会を経て、温泉の再開発と第3セクター会社の設立に至り、平成12年に新温泉が誕生しました。

再開発計画では、年間利用者数を15万人と計画しましたが、今年7年で200万人を達成するという事態で喜ばしい限りです。

長沼温泉組合では、第3セクターによる新施設が稼働する日まで、半世紀にわたり旧公衆浴場を運営し、地域の温泉利用環境を支えてきました。

ぼっぼの湯がオープンするまで、長沼温泉はいろんな面で紆余曲折もありましたが、現在は多くのお客さんの協力で、好況の様でありがたく思います。

平成の合併により施設所有は鶴岡市に移りましたが、第3セクターの運営を支えながら、新たな目標に向けて頑張っていきたいと思えます。

（長沼温泉振興組合代表 土田利男）

# ある中国残留孤児の生涯⑪

新町 齋藤留治

## 生活保護と生活保障

中国残留孤児には、帰国後1年間ほど日本語教育を受ける機会が与えられた。

しかし1年後には「自立をして下さい」、「働いて」と生活保障の担当部門から折に触れて迫られたようだ。

「働きながら言葉を覚える」を指導方針としていたようだが、片言の日本語しか話せない者に直ぐに仕事が見つかるとはなかった。

後で知った事だが、私達家族（佐藤安男）にも短期間であったが生活保障費が支給されていたようだったが、直接受け取った記憶はない。

その金があれば、夫婦で日雇いのような待遇で働いて得たお金と合わせれば、もうちょっとまともな生活が出来たのにと、悔しい思いをしたが。

私達が貰うべきお金はどう消えてしまったのかなー。

中国は世界第2の経済大国となったが、私の住んでいた頃の中国の農村の生活は、自給自足の貧乏生活で、水道だつて有ればいい方で、数十戸が住む集落でも蛇口はひとつ、バケツ（桶）を持って水を汲みに行かなければならなかった。

ましてやガスや灯油で暖をとれるのは別世界に住む満元戸（中国富裕層のこと）の話だ。

それこそマイナス20℃になるような冬は、家にある衣類を全部着こんだ着膨れ生活だった。

いくら貧乏生活に慣れている私達でも、土地は無い、金は無いでは、祖国での生活は乞食の生活と言っても過言ではなかった。

「私、齋藤がブリスベーンで見た生活保障者への応援」

数年前、やっと売れ出した芸能人の母親が、生活保障受給とヤンヤのバツシングを受けた事があった。

ブリスベーンという町では、保護受給者が毎朝新聞売り（街角）に立っていた。

生活保障から抜け出せるように、人々も新聞を買って事だ応援をしているという。



日本のように「あれも、これもダメ」と自立を妨げる規制はしていない。

巧言令色が剥げ、落日のアベ政治より「生活保障を生活保障法」に、と訴える共産党の志位委員長に共感を覚えるのだが。

私が若き頃、学校卒業後に会ったことのない同級生が、突然私の居所に来た事があった。何かと思つたら「ある宗教」への勧誘であった。

彼は熱心にある党の話をして帰つたが、さて、アベ政治の応援団として貧乏人を虐めているようにしかみえないその党を、今も信じ切っているのか気に掛る。

## 与野党問わず国会として真相究明が憲法の精神にある議院内閣制

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇

約8億円の値引きにつなげた地中ごみを試掘した業者が、ごみ

を実際より深くにあると見せかけるため、「事実と違うことを書かされた」という虚偽報告書の証言、自殺した財務省近畿財務局職員が、

上からの指示で「書き換えをさせられた」とのメモを残していたなど次々に疑惑を裏付けることが出てくる。

負う」とある。

内閣に属する行政権は、通常は財務省など各省が行使する。しかし、「公文書改ざん」は行政への信頼を揺るがす政治問題で、一財務省では済まされない内閣の重大問題である。

さらに行政権の行使は、国会に責任を負うとある。ここでいう責任は政治責任といわれ、対象となるのは違法行為だけではなく、政治問題一般について責任を負うことである。また、究極の責任は



## 平成疑獄事件か

かつて「疑獄」と言われた事件には自殺者があったと記憶している。森友についても悲しいことに自殺者が出た。モリカケは、平成の疑獄事件となるのか。

▲問題は、国有財産を8億円も値引きしたのはなぜか。担当部署でそれで得をする人はいないわけだから、誰か大物のサインがあったのではないか・は当然の疑問が、8億円の値引きに関する起案文書が書き換えられていたことが判明して、誰の為かという疑問が分

り易くなった感じた。▲もう一方の問題は、行政府・財務省と国交省とそのトップの首相と財務・国交の大臣が立法院・国会でウソをついてきたこと。しかし、会計検査院は、書き換え前後2つの文書を持つていたんだと力

総辞職だが、その前段

で、日常的に両院で行われる質問、調査、およびそれへの回答、協力といったものが憲法では想定されている。

このように国会と内閣は協力関係にあるのである。したがって今回の事件のように、1年間も内閣が国会をだまし続けたことに対し、まさに国会議員として与野党を問わず安倍昭恵氏の証人喚問も含め、あらゆる方法で真相究明すべきである。

日本中どっかオカシクなっていないですか。

▲NHKは文書の「書き換え」と言っているが、文書の数・書き換えケ所が多さから、NHK以外が使用している文書の「改ざん」と言つのが正しいようだ。広辞苑でも・・・だ。

▲改ざんが始まったのがこの問題での首相の発言、「私や私の妻が関係していたら首相も議員も辞める」といった去年2月17日後からだというからネー。

▲改ざんを指示された職員は、「公務員がしてはならないことだし、自分の生き方考え方は合わないし」と、長いこと悩んだ末に命を絶つたようだ。理不尽な指示が誰の為だったか、亡くなった職員は判つていたのだろうか。

▲加計では、市役所の復命書が4頁から2頁に減つていているというから、こりゃ短期間では終わらないぜー。(石川)